

## 能力とともに魅力を持つリーダーに

内山 充

大小を問わず、何らかの役割と目標を持つ集団には、必ずリーダーが必要である。管理・監督する人という意味でなく、また必ずしも一人だけとは限らない。それは、はっきりと適切な判断のできる人と言う意味であり、先見性と洞察力があり、固定観念や前例・形式にとらわれないフレキシブルな考えの人が望ましい。その様なリーダーを欠く集団は、役割も目的も意思もはっきりとしない単なるその場限りの人の集まりとなり、目先の出来事に右往左往することになる。判断が適切でないと課題の解決も仕事の発展も望めない。

適切な判断かどうか、すなわち計画立案や実施方策が正しく、当を得ていたかどうかは、一定時期を経た後に明らかになることであるが、その積み重ねが信頼感となる。

リーダーに対する信頼感は、お上のお墨付きや学歴・肩書きで作られるのではない。また、必ずしも業績や能力だけから生まれるものでもない。「あの人のようになりたい」「あの人に学びたい」と思わせる「魅力」が生み出すものである。

魅力あるリーダーは、先に述べた先見性や柔軟性のほか、明快な目的思考、意表をつく独創性、人間としての謙虚さ、ユーモアのセンス等を身につける必要がある。勿論、弱者への思いやりと卑怯な行為を恥じる心も決して忘れてはならない。

保健・衛生という仕事を使命としている薬剤師は、病院にせよコミュニティー（地域集団）にせよ、常に多くの人々と接する集団の中にいる。また、大学でも、団体でも、さらには生涯研修プロバイダーとしても、集団活動に携わることになる。

どこにいても、生涯学習で自らの能力・適性を磨くと同時に、魅力あるリーダーとなるように心がけて欲しい。